

情報システム・バックアップオフィス研究会 2010年度 第8回 議事録

1. 会合概要

- ・開催日 : 2010年12月14日(火) 16:00~18:00
- ・開催場所 : BCAO本部(東海日本橋ビル) 会議室
- ・進行役 : 川村丹美(CAC:座長)
- ・議事録作成 : 伊藤高信
- ・出席者数 : 16名(出席者名は末尾参照)
- ・資料 : ①第7回アジェンダ(事前配布)
②会議資料(プロジェクタによる投影)

2. 議事内容

(1) 事務局からの報告

① 第6回月例講習会

「テロ・事件研究会からの研究発表」

「欧米のテロ・事件について」ローデンさん

ーテロの内容が変化してきた

ーかつては生活苦の環境にある人がテロの犯行に及んでいたが、今は米国で育ったイスラム系の米国国籍人による米国内テロが増加傾向にある

(レポート:岡さん)

② 「そなエリア東京」見学会(ITBO主催)

参加者:45名(ITBO研究会、関西支部会、中小企業・地域普及研究会、BCP維持管理研究会、公的組織BCP・法環境研究会)

見学後:5つの研究会参加による合同討議が実施された。

ー充実した内容の討議だった

ー討議内容をもとに今後ITBO研究会の中でも再度討議を行いたい

③ 12月開催のイベント

「地域貢献・連携研究会からの研究発表」

「生き延びるための防災貢献活動」

→羽石さん・岡さんが参加

ー現在の防災状況のレポート

ー冷蔵庫でさえも倒れる地震(高層ビルのどこが一番揺れるか等)

ー防災系に特化したセミナーだった

④ BCAO BCM推進セミナー

12月15日国立オリンピック青少年センターにて。詳細は後日。

(2) Happy Hour

「BCMにおけるクラウドコンピューティングの活用」について
コアメンバーによる第一回討議結果をもとに ITBO 研究会としての見解について討議した。クラウド検討における基本方針および制約事項について現状で出ている案について川村座長から説明し、その内容について討議した。

- ・ 検討方針
 - BCP/BCM の観点からクラウドを分析する
→単なるクラウドの技術紹介では終わらせない
 - 基本事項や各用語の指し示す定義を明確にする
 - クラウドに対する理想と現実を把握することから始める
→何ができて、どのようなメリット/デメリットがあるかを客観的に整理する
 - 課題、将来展望、リスクなども併せて提起する
 - 今回は BCP/BCM に関連する部分（RTOとサービスレベルなど）にフォーカスし、その他の詳細分析に関しては次のステップでの課題とする
- ・ 検討対象
 - 「クラウドサービスと事業継続の関わり」を中心とする
→クラウドサービス全般に関しては ITBO としての見解を述べるにとどめる
 - 上記を満たしていれば当面は特にそれ以上範囲を限定せず、多くの意見を吸い上げるために広い議論を行うことに主軸を置く
- ・ 検討の最終目標（ゴール）
 - クラウドについての理想と現実とのギャップを明確にする
 - クラウドにおける課題を提示し、可能な限り解決案をさぐる
 - 解決しえない課題が明らかになった場合は問題提起として投げかける
- ・ 分析方法
 - 分析はユーザー目線を縦軸に据え、技術、サポート、コスト対効果等を横軸に分析を行う
 - 具体的に分析結果を記述できない項目は評価軸を作る事を目的とする
 - 技術分析にかたよらず、クラウドユーザーの視線を大切にする
 - 加えて、企業経営者の目線でも議論できるようにする
- ・ クラウド検討の際に考慮すべき制約事項
 - 特定企業の扱い
BCAO としてクラウドについて見解を述べる際には、特定の技術やベンダーの利害に影響しないように中立的立場を取る
→特定の企業に有利または不利になる情報については記載しないか、ただし書き付きでの表現等を行う

- 特定ベンダーの宣伝にならないよう、企業名の出し方については慎重に考慮する
 - 議論への参加
 - ベンダーからの一方的な話になることによってユーザー不在とならないように配慮し、ユーザーの立場からも議論に参加してもらう
 - 事例の扱い
 - 事例は間接的な宣伝を回避するため比較資料の提示を原則とする
 - サービス内容、価格、公表ユーザー数、プロバイダーの経営母体の紹介などは事例の比較において必要な場合のみ行う
 - 原則、各サービスの優劣の評価は行わない（目的としない）
- その他の討議事項
 - 情報セキュリティ大学院大学原田研究室「クラウドに関する情報セキュリティ調査アンケート」結果について（CSK 田中さんのレポート）
 - 安全性についての質問がユーザーから多くなっている
 - B C P / 事業復旧関連事項 利用者からの質問の具体的課題
 - 組織的リスク => 事業社がサービス不能の場合の対応について
 - 他のクラウド利用者によって発生したトラブルに影響を受ける
 - 事業社に全部を任せてしまって、以降の自社による対応ができなくなる
 - 事業社⇔利用者の責任分解が不明確
 - S L A が保障されていないのではないか？
 - 事業社が選択される基準：
 - ① 障害対応が早い、S L A の明記（重大障害時の代替え、R T O, バックアップ、D R, 監視間隔等）など
 - ② 第三者からの、I S M S, P マーク、B S の要求に応えられるか
 - BCM におけるクラウド
 - クラウドを巡る問題点に関して
 - ① クラウドベンダーの多くが平常時の経費節減を前面に出した売り込みをかけており、B C P をサポートできるクラウドとは何かは今まではほとんど議論されてこなかった
 - ② 技術論が前面に押し出され、ユーザー不在の議論が繰り返されてきた
 - I T B O の検討課題に関して
 - ① 「サービスをとめないためのクラウド」としての使われかたとは？
 - ② 事業継続体制を強化するためのクラウドとは？
 - ③ 今までベンダー主導で「夢のツール」「便利なツール」として情報発信されてきたが、本当にそうか？
 - ④ 災害時にクラウドサービスを本当に継続できるのか？

- ⑤ 災害時にクラウドサービスを継続するためには何が必要なのか？
- ⑥ 安いだけのワングレード・サービスでいいのか？
- その他の意見
 - ① 災害時にも業務を継続できることへの価値をユーザーも認識すべき
→現状では有事に対してのユーザー側の認識がないままに、要求だけが高くなっているのではないか
 - ② 「安心」は無料で得られるものではなく、「安心」を得るためには対価が必要であることをもっと前面に出す必要があるのではないか
 - ③ B C Pの観点から見た場合、クラウドを含む I Tサービスの S L Aの設定と解釈が誤っているのではないか？

細坪さんより、

「BCAO としてどのような形でクラウドに関する主張をしていくか、引き続き ITBO にて協議していただきたい。」

(3) 用語研究

以下について討議を行った（担当：吉川さん、土橋さん）

- 1) インシデント
- 2) D R P
- 3) コンテンジェンシープラン
- 4) バックアップサイト
- 5) コールドサイト
- 6) ウォームサイト
- 7) ミラーサイト

3. 2010年度 第8回研究会出席者一覧

1	川村 丹美	株式会社シーエーシー
2	安齊 隆正	日立電子サービス株式会社
3	伊藤 高信	TeleContinuity, Inc
4	大塚 純一	日本アイ・ビー・エム
5	岡 伸幸	ソフトバンクBB株式会社
6	加藤 誠	株式会社 日立製作所
7	近藤 隆一	株式会社富士通エフサス
8	佐柳 恭威	スタンダード&プアーズ
9	土橋 篤	みずほ情報総研株式会社
10	西出 三輝	株式会社損保ジャパンリスクマネジメント
11	野口 洋子	わかば国際特許事務所
12	三浦 重好	株式会社インターネットイニシアティブ
13	山口 孝一	株式会社インターネットイニシアティブ
14	吉川 明人	NEC ネクサソリューションズ株式会社
15	林 志全	株式会社アーキウェブ
16	田中 弘明	株式会社 CSK システムズ
17	細坪 信二	BCAO 事務局長

※細坪事務局長はクラウドに関する討議に参加した。